

かい ぎ ろく
会 議 録

かいぎ めいしょう 会議の名称	へいせい ねんど だい かいこまきしたぶんかきょうせいきょうぎかい 平成 27 年度 第 2 回小牧市多文化共生協議会について				
かいさいにちじ 開催日時	へいせい ねん がつ にち ごご じ～ 9 じ 平成 27 年 3 月 17 日(木) 午後 7 時～ 9 時				
かいさいばしょ 開催場所	こまきしやくしょ ほんちようしゃ かい かいぎしつ 小牧市役所 本庁舎 3 階 301 会議室				
しゅつせきしゃ およ 出席者 及 けつせきしゃ び欠席者	しゅつせきしゃ ○出席者 【委員】 すぎもと い いん みやたい いん うへはらい いん ひ が い いん おおしま い いん かきはら 杉元 委員、宮田 委員、上原 委員、比嘉 委員、大島 委員、柿原 い いん いもと い いん すずき い いん あおやま い いん とだ い いん こまき けい さつ 委員、井本 委員、鈴木 委員、青山 委員、戸田 委員 (小牧警察 しょ) さわき い いん ちいま かつ せい か えい ぎ ょう ぶ じ ち ょう 署)、澤木 委員 (地域活性化営業部次長) じむきょく 【事務局】 たけいち か ち ょう おがさわら か ち ょう ほ さ がんどう か かり ち ょう まつなが し ゆ じ 武市課長、小笠原課長補佐、丸藤係長、松永主事 けつせきしゃ ○欠席者 さいれん じ い いん つほや い いん いとう い いん こまき し こくさい こ うえん かい 西連寺 委員、坪谷 委員、伊藤 委員 (小牧市国際交流協会)				
ほうちよう か ひ 傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 否	ほうちようてい いん 傍聴定員	10	ほうちようにんずう 傍聴人数	2
かいぎしだい 会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 内 容 (1) ぜんかい ふ かえ 前回の振り返り (2) たぶんかきょうせい かん いけんしょ 多文化共生に関する意見書について 4 その他				
といあわ さき 問合せ先	こまきしやくしょ ちいま かつ せい か えい ぎ ょう ぶ し て い ぶ ろ も ー し ょ ん か 小牧市役所 地域活性化営業部 シティプロモーション課 にぎわい 創 出 係				
かいぎ ない いう 会議内容	べつし さんしょう 別紙 1 参照				

全部記録 要点記録

かい 会	ぎ 議	ない 内	よう 容
<p>1. ^{かいかい}開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ^{しみんけんしょうしょうわ}市民憲章唱和 <p>2. あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ^{いいんちょう}委員長よりあいさつ <p>3. ^{ないよう}内容</p> <p>(1) ^{ぜんかい}前回の^ふ振り返り^{かえ}</p> <p>(^{じむきょく}事務局)</p> <p>資料の1ページから4ページに、前回の会議で話し合った内容をまとめた。前回の会議では、多文化共生に関する意見書について話し合いをしていただいた。その中で、イベントなどへ参加する意欲をどうしたらあげられるかや、どのように情報を伝達すれば多くの人に伝わるかなどの意見をいただいた。</p> <p>イベントなどのお知らせ文書を翻訳し、外国人の参加意欲をわかせることは大事だが、翻訳だけでは終わらせず、そのイベントに参加した時にも言葉がわかるようにしておけるといいといった意見や、情報発信の際には、フェイスブックなどのSNSを積極的に活用したり、教会やグループなど、外国人が多く集まる団体に情報を発信していけばより多くの人に伝わりとといった意見をいただいた。</p> <p>また、異文化交流には自分の生まれた国の文化を理解し、説明できることも重要という意見や、日本人も外国人も一人ひとりの違いを認め合ってお互いに尊重し合える社会づくりに力を入れてほしいという意見など様々な意見をいただいた。</p> <p>今日の会議では、前回の内容をふまえ、事前に配った多文化共生に関する意見書について、意見を伺いたい。</p> <p>(^{いいんちょう}委員長)</p> <p>ただいまの事務局説明で何か分からないことや質問、意見などあればお聞きしたい。</p> <p>(^{いいんちょう}委員長)</p> <p>意見はないようなので、次の内容に移りたい。</p> <p>(2) ^{たぶんかきょうせい}多文化共生に関する^{いけんしょ}意見書について</p>			

じむきょく
(事務局)

資料の5ページから7ページをご覧ください。これまでの話し合いをふまえて意見書の案を作成した。この意見書は今後の多文化共生の推進に向けて多文化共生協議会として、みなさんの意見を聞き、まとめたものを市長に提出するのでよろしくお願ひしたい。

まず、「1 小牧市の外国人市民の状況について」説明する。

小牧市の外国人市民の人数は、平成28年1月1日現在3,949世帯7,519人となっている。日本人市民をあわせた総人口に占める割合は、4.9%となっており、愛知県内では、3番目に高い数値を示している。

平成18年11月に小牧市の外国人登録者数は過去最高を記録し、9,673人、総人口に占める割合は6.28%となったが、その後は世界的な経済危機を背景に、雇用・就業環境の悪化、家計所得の低下などにより多くの方が帰国を余儀なくされ、減少傾向が続いてきた。

一方、近年の特徴として、定住化・永住化を望む外国人市民の人数が増加していることがあげられる。平成15年の定住者、永住者の割合は、57.9%で、平成28年には67.8%となっており、約9.9ポイント上昇している。

また、国籍別に外国人市民をみると、平成28年1月現在、ブラジルが2,769人(36.8%)で最も多い状況だが、リーマンショック前は約5,000人であったため、当時と比べるとかなり減少した。次いでフィリピンが1,079人(14.4%)、中国が958人(12.7%)、ペルーが752人(10.0%)、韓国・朝鮮が489人(6.5%)となっている。

また、フィリピン、中国などアジア系の外国人市民が増えてきていることにも留意する必要がある。特に、フィリピン国籍の市民数はリーマンショック後も増加しており、平成27年には初めて1,000人を超えた。

いいんちょう
(委員長)

ただいまの事務局説明から、フィリピン国籍の市民はリーマンショック後も増加しており、平成27年には初めて1,000人を超えたということだが、フィリピン国籍の市民は増加していると感じるか。

いいん
(委員 A)

フィリピン国籍の市民は増加していると感じている。病院や、スーパーなどでよくフィリピン国籍の方を見かける。

いいんちょう
(委員長)

以前は中国国籍の市民が小牧市で2番目に多く、3番目がフィリピン

国籍の市民だったが、今ではフィリピン国籍市民数が中国を抜いて2番目という状況になっているということで、やはり増加を肌で感じていることと思う。また、意見書(案)にも記載してあるように、フィリピンや中国などのアジア系の外国人市民が増加してきていることから、これからアジア系の外国人市民のフォローについても留意する必要がある。ブラジル国籍の市民数がリーマンショック後に大きく減少したが、日本での定住化・永住化を希望する外国籍市民は増えている。

(委員B)

私のまわりでは定住化・永住化もそうだが、帰化をすることへの相談も多いように感じる。

(委員C)

以前は職場で働く人は日本人のほかにはブラジル国籍の人ばかりだったが、今ではフィリピンやベトナムなど、様々な国籍の人が働いている。彼らと話す中で、日本でもっと長く住むにはどうしたらいいかといった話題が多く出る。

(委員長)

やはり日本に長く住みたいという外国籍市民は増えてきているようである。定住化・永住化、つまり生活者としての視点で、十分なフォローができるように取り組んでいかなければならない。

(事務局)

次に、「2 小牧市多文化共生推進プランについて」説明する。

1のような状況のなか、小牧市は、平成23年3月に小牧市多文化共生推進プランを策定し、市の多文化共生に対する基本的な考え方を明らかにした。計画期間は平成23年から平成27年の5年間で、スローガンをみんな「こまき市民」、助けあって笑顔で暮らせるまちと定め、5つの基本目標を掲げ、進捗については小牧市多文化共生協議会で見守ってきた。達成率については、「①一人ひとりの防災対策が100点のまちにします」が58%、「②自治会の活動への参加を増やします」が43%、「③正しいごみの出し方を知り、ごみの減量をめざします」が76%、「④子どもたちの「多文化共生」を応援します」が57%、「⑤国籍・民族・文化・言葉などお互いの「ちがいを学びます」が63%であったが、目標の達成には至っておらず、さまざまな実施主体を巻き込んだ取り組みが必要である。

(委員長)

②自治会の活動への参加について、全体での達成率は低いという状況

だが、みなさんの地域での状況^{じょうきょう}はどうか。またみなさんの区^くではどういった活動^{かつどう}を外国人市民^{がいこくじんしん}と行^{おこな}っているか。

(委員 D)

私の区^くでは今年度^{こんねんど}9人の外国人市民^{がいこくじんしん}が自治会^{じちかい}に加入^{かにゆう}しており、そのうち3人が自治会^{じちかい}の役員^{やくいん}を務^{つと}めてくれているが、言葉^{ことば}が通^{つう}じないということと、仕事^{しごと}の都合^{つごう}でなかなか参加^{さんか}できないという状況^{じょうきょう}である。自治会行事^{じちかいぎじょう}は、夏まつり^{なつまつり}やペタンク大会^{ぺたんくたいかい}などたくさんあるが、やはり外国人市民^{がいこくじんしん}の参加^{さんか}は少ない。

(委員長)

外国人市民^{がいこくじんしん}の参加^{さんか}が増^ふえるように、外国人市民^{がいこくじんしん}がおおすくどし^{くどし}に住^{げんざい}む区同士^{じょうきょう}で現在の状況^{じょうきょう}を共有^{きょうゆう}しあうなどして、それぞれの区^くでの活動^{かつどう}が他の地域^{ほか}にも広^{ちいき}がっていきといい。

(事務局)

最後に、「3 今後^{こんご}について」説明^{せつめい}する。

リーマンショック^{りーまんしょく}以降^{いこう}、減少^{げんしょう}してきた小牧市^{こまきし}の外国人市民^{がいこくじんしん}の人数^{にんずう}だが、景気^{けいき}の動向^{どうこう}などを反映^{はんえい}し若干^{じやつぱん}の上向き傾向^{うわむけいこう}となっており、このところ7,500人前後^{にんぜんご}で推移^{すいひ}をしている。今後^{こんご}の見通し^{みとおし}については、政府^{せいふ}は、新成長戦略^{しんせいちょうせんりやく}として外国人技能実習制度^{がいこくじんぎのうじっしゅうせいど}の見直し^{みなお}を含め外国人材^{がいこくじんざい}をさらに活用^{かつよう}していくこととしており、日本全体^{にほんぜんたい}をみれば今後^{こんご}も外国人在住者^{がいこくじんざいじゆうしゃ}は増加傾向^{ぞうかけいこう}にあると予想^{よそう}されている。小牧市^{こまきし}における直接的な影響^{えいきょう}は不透明^{ふとうめい}だが、今後^{こんご}も注意深く見守^{ちゆういぶか}っていく必要がある^{みまもひつよう}。

また、近年^{きんねん}の定住化^{ていじゅうか}・永住化傾向^{えいじゅうか}を鑑^{かんが}みると、生活者^{せいかつしゃ}としての外国人^{がいこくじん}の視点^{してん}で各種^{かくしゆ}施策^{しやく}を展開^{てんかい}していく必要がある^{ひつよう}。これまで、小牧市^{こまきし}では、小牧市多文化共生推進^{こまきしたぶんかきょうせい}プランの5つの基本目標^{きほんもくひょう}を中心に、多文化共生^{たぶんかきょうせい}を推進^{すいしん}してきた。これらは、まさに外国人市民^{がいこくじんしん}が小牧市^{こまきし}で生活^{せいかつ}をする上で、とても大事な視点^{だいじ}である。小牧市多文化共生推進^{こまきしたぶんかきょうせい}プランについては、平成27年度^{へいせいねんど}をもって終了^{しゅうりょう}するが、引き続き^{ひつづき}、プランの基本的な考^{きほんてき}え方^{かんが}・基本目標^{きほんもくひょう}を今後^{こんご}の小牧市^{こまきし}の多文化共生施策^{たぶんかきょうせい}の指針^{ししん}として継承^{けいしょう}し、ますます多文化共生^{たぶんかきょうせい}の推進^{すいしん}に取り組^とんでいただきたいと思います^{おも}。

(委員長)

ただいまの事務局説明^{じむきよくせつめい}で、政府^{せいふ}は今後^{こんご}、新成長戦略^{しんせいちょうせんりやく}として外国人材^{がいこくじんざい}をさらに活用^{かつよう}していくということであった。会社^{かいしゃ}ではここ数年^{すうねん}の間^{あいだ}で外国人^{がいこくじん}の労働者^{ろうどうしゃ}は増^ふえているか。また、何か対応^{なにたいおう}で配慮^{はいりよ}していることはあるか。

(委員 E)

私の会社^{わたくし}ではここ数年^{すうねん}の間^{あいだ}で外国人労働者^{がいこくじんろうどうしゃ}が増^ふえたかどうかは分からないが、現在^{げんざい}派遣社員^{はけんしゃいん}として外国籍^{がいこくせき}の方が約100名^{かたやくめい}いる。そのほとんどがブラジル国籍^{ぶらじるこくせき}の方^{かた}である。今後^{こんご}の採用^{さいようとう}等の計画^{けいかく}についてはまだ決まっ

てはないが、景気^{けいき}の動向^{どうこう}なども勘案^{かんあん}して決定^{けつてい}していくつもりである。
外国人労働者^{がいこくじんろうどうしや}への対応方法^{たいおうほうほう}であるが、会社^{かいしや}のマニュアル^{まにゅある}などの資料^{しりょう}を翻訳^{ほんやく}して配布^{はいふ}するなどしている。

いいんちょう
(委員長)

日本全体^{にほんぜんたい}での外国人労働者^{がいこくじんろうどうしや}は3年連続^{ねんれんぞく}で増加^{ぞうか}し、過去最高^{かこさいこう}を更新^{こうしん}しているそうだが、全ての地域^{すべちいき}、全ての会社^{すべかいしや}には当てはまらないようである。だが、今後は日本全体^{にほんぜんたい}で外国人材^{がいこくじんざい}のさらなる活用^{かつよう}も行っていくこととしていることから、小牧市^{こまきし}での外国人労働者^{がいこくじんろうどうしや}の動向^{どうこう}には配慮^{はいりよ}する必要がある^{ひつよう}。

小牧警察署^{こまきけいさつしよ}では、小牧市^{こまきし}の治安^{ちあん}を守るため日々^{まも}取り組んでいただいていると思う。多文化共生^{たぶんかきょうせい}といっても、市^しや自治会^{じちかい}とは違った視点^{ちが}で取り組んでいただいていることと思う。小牧警察署^{こまきけいさつしよ}では多文化共生^{たぶんかきょうせい}の取り組み^{とりくみ}をどのように^{おこな}に行っているか。

いいん
(委員 F)

小牧警察署^{こまきけいさつしよ}では、国際化問題^{こくさいかもんだい}連絡協議会^{れんらくきょうぎかい}という組織^{そしき}をつくって、協議会^{きょうぎかい}に加入^{かにゆう}している企業^{きぎょう}を通じて外国人労働者^{がいこくじんろうどうしや}への安全運轉^{あんぜんうんてん}のよびかけ^{おこな}を行っている。小牧市^{こまきし}の国籍別外国人市民人数^{こくせきべつがいこくじんしみんにんずう}で、ブラジル国籍^{ぶらじるこくせき}の市民^{しみん}が最も^{もっと}多い^{おお}とのことだが、その数の割^{かず}にブラジル国籍^{ぶらじるこくせき}の市民^{しみん}が関わる事案^{かか}が少ない^{じあんすく}という印象^{いんしやう}である。代わりに^か技能実習制度^{ぎのうじっしゅうせいど}の関係^{かんけい}からベトナム国籍^{べとなむこくせき}の市民^{しみん}が関わる事案^{かか}が最近^{じあんさいきん}増えてきているので、今後^{こんご}こういった協議会^{きょうぎかい}にはベトナム国籍^{べとなむこくせき}の市民^{しみん}に参加^{さんか}してもらった方が^{ほう}情報共有^{じょうほうきょうゆう}できていいのではないか^{おも}と思う。

いいんちょう
(委員長)

最近^{さいきん}ベトナム国籍^{べとなむこくせき}の市民^{しみん}が関わる事案^{かか}が増えてきている^{じあんふ}ということで、こういった会議^{かいぎ}の中^{なか}にベトナム国籍^{べとなむこくせき}の市民^{しみん}が加わる^{くわ}ことによって、情報^{じょうほう}の共有^{きょうゆう}だけでなく、困^{こま}っていること^{かだい}や課題^みも見つかる^{おも}と思うので、今後^{こんご}こういった会議^{かいぎ}がある場合^{ばあい}にはベトナム国籍^{べとなむこくせき}の市民^{しみん}にも参加^{さんか}してもらえるように^{ひつよう}していく必要がある。

いいんちょう
(委員長)

ここまでで何か^{なに}分からないこと^わや質問^{しつもん}、意見^{いけん}などあればお聞き^きしたい。

いいん
(委員 B)

意見書^{いけんしよ}は市長^{しちやう}あてに提出^{ていしゅつ}するだけでなく、市^しの広報^{こうほう}や外国語版^{がいこくごばん}の広報^{こうほう}に載^のせたり、プラン^{ぷらん}のダイジェスト版^{だいじえすとばん}のように印刷^{いんさつ}して配布^{はいふ}してはどうか。

じむきよく
(事務局)

意見書については、完成次第ホームページに掲載する予定である。

(委員 B)

プランの達成状況を見ると、「③正しいごみの出し方を知り、ごみの減量をめざします。」の達成率が高いが、実際に自治会などではごみの問題がとて多多く取り上げられているように感じることから、外国籍市民にはごみの出し方が完全に浸透していないのではないかと。⑤国籍・民族・文化・言葉などお互いの「ちがい」を学びます」に関して、外国人に日本の文化を教える講座や行事はたくさんあるが、逆に日本人に外国の文化を教えるという講座や行事は少ないように感じる。また、現在外国籍市民が抱えている問題や困っていることを共有する場が少ないため、そのような場をもっと多く設けることが重要だと思ふ。

(委員長)

外国籍市民の方が今抱えている問題や、どんなことに困っているのかを把握することが必要である。今後多文化共生協議会のような情報共有とコミュニケーションの場を積極的に設けていけたらと思ふ。

(委員 A)

私の友人はタガログ語を話すのだが、病院ではタガログ語の通訳がなく、言葉が通じない。病院などの機関で通訳をおいてもらえればとても助かる。

(事務局)

小牧市内の病院によっては「あいち医療通訳システム」に登録しているところもあり、登録をしている医療機関に依頼をすれば医療通訳の派遣や電話通訳なども利用できるため、一度医療機関に聞いてみてはどうかと思ふ。

(委員長)

他に意見もないようなので、ここで意見書のまとめをしたい。

まず、「1. 小牧市の外国人市民の状況について」であるが、定住化・永住化を希望する小牧市の外国人市民人数の増加や、フィリピンや中国などアジア系の外国人市民の増加が近年目立ってきており、これらの動向には配慮する必要がある。

「2. 小牧市多文化共生推進プランについて」は、プランにおいて5つの基本目標を掲げて目標の達成に向けて取り組んできたが、目標の達成には至っていない。これらの目標が1つでも達成できるようにさまざま

な実施主体を巻き込みながら取り組んでいくことが必要である。

「3. 今後について」は、日本全体での外国人材のさらなる活用が見込まれているということで、小牧市に関してもその動向については注意し、また、定住者・永住者の数が増加していることにも配慮しながら、引き続きプランの内容については今後も指針として継承し、多文化共生の推進に向けて取り組む必要がある。

最後に、多文化共生協議会が今年度最後ということで、各委員から小牧市が今後どんなまちになってほしいかや、これから小牧市に期待することなどの意見をいただきたい。

(各委員)

・学校での子どものいじめの問題が多いと感じる。いじめの問題がなくなるように、相談できる場を設けてほしい。

・やはり言葉がうまく伝わらず、苦労している人が多いと思う。もっと多くの場所に通訳をおいてほしい。

・前回の多文化共生協議会で小牧市国際交流協会の方と知り合ったことをきっかけに、イベントのパンフレットをポルトガル語や中国語に翻訳してもらえ、とても助かった。協議会のような場は、お互いのコミュニケーションを図るうえで重要であると感じた。

・ラピオのえほん図書館ではたくさん絵本があって子どもにとって非常にいい施設だと思うが、外国人の子どもは滅多に見ない。そもそも外国籍市民はこのような施設があること自体知らないのではないかと思うので、もっと情報発信に力を入れてほしい。

・日本で少子高齢化が問題になっているが、外国籍市民も日本と同様に少子高齢化が進行中であり、これから問題になってくると思うので高齢化対策も考えていった方がいい。

・私の区では30～40人の外国籍市民がいる。やはり大事なことはお互いに関わりあうことだと思う。外国籍市民であっても区の色々な行事に気軽に参加してほしい。また、日本人側としてももっと外国籍市民が気軽に参加できる仕組みをつくらなければならないと思う。

・外国籍市民のマナーが悪いと感じることがある。ただ、その人たちに悪気はなく、ただ日本のルールやマナーを知らないだけだと思うので、日本のマナーを学べるような講座があるといい。

・お互いの違いを認め合い、理解するために、受け入れ側の日本として

も文化やルールなどの違いを学ぶ必要があると思う。

・多文化共生協議会のような、現在の課題や困っていることをお互いに共有できるような場がもっとたくさんあるといいと思う。

4. その他

(事務局)

今年度をもって、プランの計画期間が終了するということで、多文化共生協議会の役目は終了となるが、今後も多文化共生の推進を図っていきたく思うので協力のほどよろしくお願いする。